

日本小児科学会 岡 明 会長殿

謹啓

貴学会におかれましては、益々ご発展のことと、お慶び申し上げます。

会員の小児科医の皆さまにより、このコロナ禍におきましても、子供達の健康が日々守られていることに、深く敬意を表し、心より感謝致します。

さて、3月より5～11歳のこども達の新型コロナワクチン接種が開始されました。不寐ながら私どもより、嘆願書を提出させて頂く次第でございます。

貴学会のシンポジウム、総会等で、小児科医を対象とした新型コロナワクチンに関する講習会の開催、また、小児に新型コロナワクチンを推奨する指針の改訂をお願いできればと存じます。

先日、貴学会の事務局に問い合わせたところ、講習会の予定はないことを伺い、岡会長殿に開催をお願いして頂くようお願いしたところ、文書での依頼をご指示頂きました。

成人では、ワクチンの有効性が急激に低下する一方、ワクチンによる副反応の患者が増加しております。神経症状、認知障害、歩行困難、ブレインフォグ等により、学校に通えず、受験を断念しているお子さん達もいます。しかし、画期的な治療法がなく、ステロイド、栄養療法等で対応法を模索する深刻な状況です。

mRNA とそれを含有する脂質ナノ粒子の機序を理解していないと、副反応と認識することも、副反応に適切に対処することもできないのが実情でございます。

PMDA の資料から、ワクチンの成分が、副腎、卵巣を始めとした重要な臓器に分布していることが公表されております。副腎不全や月経異常を呈している症例もございます。

[https://www.pmda.go.jp/drugs/2021/P20210212001/672212000\\_30300AMX00231\\_I100\\_1.pdf](https://www.pmda.go.jp/drugs/2021/P20210212001/672212000_30300AMX00231_I100_1.pdf)

S 蛋白による血管内皮傷害の影響で、出血傾向を呈する症例もあります。

接種券を全員に送付する自治体が多いため、一定数のこども達が接種後に副反応を呈することが予想さ

れます。

10代では、感染による重症より接種後重篤例が多いことが懸念されております。

[https://www.coreregistry.jp/CoreRegistry\\_COVID19\\_CRF\\_Dashboard/Home/DashBoardviewer\(2022.3.4\)](https://www.coreregistry.jp/CoreRegistry_COVID19_CRF_Dashboard/Home/DashBoardviewer(2022.3.4))

<https://covid-vaccine.jp/moderna-medi> <https://covid-vaccine.jp/pfizer-medi> (2022.2.18)

	新型コロナ感染		新型コロナワクチン接種後		
	死亡例	重症例	死亡例	重篤例	未回復の重篤例
10代	7人	6人	5人	399人	45人
10代未満	0人		?	?	?

CDCによりますと、5-11歳のワクチンを受けた子供のうち、4379人が日常生活に支障、6615人が登

校できないと報告されております。 [COVID-19 Vaccine Safety in Children Aged 5-11 Years—United](#)

[States, November 3–December 19, 2021 \(cdc.gov\)](#)

**TABLE 3. Reactions reported for children aged 5–11 years (N = 42,504) who completed at least one v-safe health check-in survey on days 0–7 after receiving Pfizer-BioNTech COVID-19 vaccine — United States, November 3–December 19, 2021**

Event	% of v-safe enrollees reporting reaction or health impact*	
	Dose 1 (N = 42,504)	Dose 2 (n = 29,899)
<b>Any injection site reaction</b>	54.8	57.5
Itching	3.8	3.7
Pain	52.7	55.8
Redness	3.7	4.4
Swelling	3.9	4.9
<b>Any systemic reaction</b>	34.7	40.9
Abdominal pain	5.1	6.4
Myalgia	7.1	10.2
Chills	3.9	6.8
Diarrhea	2.6	2.2
Fatigue	20.1	25.9
Fever	7.9	13.4
Headache	13.9	19.8
Joint pain	2.1	2.9
Nausea	5.0	6.9
Rash	1.2	1.0
Vomiting	2.3	2.7
<b>Any health impact</b>	10.9	15.1
Unable to perform normal daily activities	5.1	7.4
Unable to attend school	7.9	10.9
Needed medical care	1.2	1.1
Telehealth	0.3	0.2
Clinic	0.6	0.6
Emergency visit	0.1	0.1
Hospitalization	0.02	0.02

\* Percentage of enrollees who reported a reaction or health impact at least once during days 0–7 post-vaccination.

一方、5-11歳のワクチンの効果はわずか1か月で65%から12%まで急激に低下し、ほぼ有効性がない結果です <https://www.medrxiv.org/content/10.1101/2022.02.25.22271454v1.full.pdf>。プレプリントではございますが、国内のCOVID19入院患者の接種率は当院だけでなく他施設でも8~9割前後と、発症予防効果が低下していることと合致します。

世界最大級のコホート研究では重症化抑制効果も短期間です。

[https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract\\_id=3949410](https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=3949410)

明らかにデメリットがメリットを上回るデータが出てきております。貴学会が2022年1月19日に提示された指針には、「より詳細なデータが出た時点で、接種に対する考え方について随時検討する予定です。」と記載して下さっています。 [https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content\\_id=404](https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=404)

誠に恐れ入りますが、貴学会におけるワクチン講習会の開催、こどものワクチンに「意義がある」とされた指針に関しての再考、そして今後の副反応に備えて頂くことを、切にお願い申し上げます。

必要でしたら、公式の学会で提示したワクチンの発表がございますので、早急にご準備できます。ご講演頂ける専門家をご紹介することも可能です。また、

小児科 医師は、ワクチンに関するデータを緻密に収集したうえでの確かな考察をしており、演者として適任かと存じます。

なお、2月にこどもコロナプラットフォームから、公開質問状が送られております。その質問は、母親達の意見を集約し、私どもの一部が作成致しました。回答期限は3月11日ですが、延長される場合は、プラットフォームにご一報頂けますよう、よろしくお願い致します。

特に [18] の基礎疾患を持つお子さんの母親からの質問にも、真摯なご回答を頂ければ幸いです。質問状は一般に公開されているため、ご回答を待っている親御さん達がいらっしゃいます。

[18] 基礎疾患を持つ子供の母親です。スパイク蛋白の血管傷害、ミトコンドリアの断片化＝細胞死といった機序を聞くと、基礎疾患があるほど心配になります。米国で接種後に死亡した5歳女兒、6歳女兒はいずれも基礎疾患があったということです。

<https://openvaers.com/index.php>

日本では基礎疾患のある子供もほとんど重症化していないと聞いています。ワクチンを打って元々の病気が悪化しないかも心配です。リスクのあるワクチンを打つことが、長期的に本当にこどもにとってベネフィットが上回るのか悩みます。基礎疾患があっても、やはり打った方がいいのでしょうか？今は安定していますが、過去に抗がん剤を使い、当時酷使した免疫系臓器、肝臓、腎臓の代謝機能に負荷がかかると恐いので、大丈夫なのか心配です。

こどもの治験は海外では行われているようですが、数も少なく(1450人)、期間も短い(3か月)なので色々と分かっていないことが多いのではないかと不安です。

<https://www.fda.gov/media/153409/download>

成人が2回接種しても感染は収束せず、生活は変わりませんでした。接種すれば元通りの生活ができると期待しているお子さん達もいますが、大人がその未来を約束することは難しいのではないのでしょうか。リスクだけを背負うことにはならないものかと強く懸念をし、ここに嘆願書を提出させて頂きました。本嘆願書は、各有志医師の会のホームページ等で一般に公開致します。

大変恐れ入りますが、講習会開催、指針のご再考につきまして、貴学会からのご回答を3月15日(火)までに、以下連絡先に頂ければ幸いに存じます。

日本の宝であるこども達を共に守って頂くため、何卒ご善処下さいますよう、謹んでよろしくお願い申し上げます。

謹白

令和4年3月7日 全国有志医師の会一同